



報道関係者各位

令和3年3月16日

和歌山県有田川町 林務課

## 林業振興及び人材育成に向けた包括連携協定を 有田川町・京都大学フィールド科学教育研究センター・ 有田中央高等学校・有田川林業活性化協議会の四者間で締結

### ■目的

有田川町が持つ豊かな地域資源である「林業」を活かした取り組みを進めることにより、林業振興において直面する課題に対応し、まちの活性化および住民生活の向上を図る。

### ■協定の概要

旧清水町地域において、従来より盛んであった林業。その林業や自然環境について学ぶこと、森林学習を通じて自ら考えまとめる力を習得することなどを目的とした授業「ウッズサイエンス」を有田中央高等学校清水分校で行っている。

「ウッズサイエンス」は清水地域唯一の高等学校である有田中央高等学校清水分校と京都大学フィールド科学教育研究センターとが提携して行っている授業科目で、これまでこの授業を受けた生徒が実際に林業従事者になったという事例もある。こうした地域の森林資源を活かせる人材の育成活動を更に充実させるため、地域の林業事業者が参画している有田川林業活性化協議会が積極的に関わり、またスムーズな連携が取れるよう、四者間で協定を締結するに至った。協定締結後は、高校の授業での連携に加え、研究フィールドの拡充や新たな事業の発展、雇用の創出に繋げる予定である。

また、有田川町においても森林環境譲与税の譲与が令和元年度から開始され、森林管理や木材利用など林業の活性化に繋がるよう注力しているところであるので、包括連携協定を行うことにより学術的な視点によって専門性を高めていきたいと考えている。

### ■締結式

日 時：令和3年3月19日（金）午前11時から 約1時間程度

場 所：有田川町役場 吉備庁舎 3階 庁議室 （有田川町下津野2018番地4）

出席者：有田川町長 中山 正隆（なかやま まさたか）

京都大学フィールド科学教育研究センター長 徳地 直子（とくち なおこ）

和歌山県立有田中央高等学校長 森 勝博（もり かつひろ）

有田川林業活性化協議会長 福本 勝次（ふくもと かつじ） ほか

※締結式において、協定書への署名の後、集合写真の時間を設けます。

※締結式閉会后、取材の時間を設けますので、質疑等ございましたらその際にお問い合わせください。

■参考：京都大学フィールド科学教育研究センター【概要】

平成15年4月に設置された、京都大学大学院の農学研究科と理学研究科に付属していた全国10ヵ所にある9施設をフィールド科学の名のもとに統合した教育研究施設。森里海連環学を教育研究の中心に置き、学部・大学院教育のみならず、全学共通教育にも、数多くの座学、フィールド実習等を提供している。その施設の一つである森林ステーション・和歌山研究林において「ウッズサイエンス」が行われている。

■参考：和歌山県立有田中央高等学校【概要】

全日制普通科高校。平成9年4月1日和歌山県立吉備高等学校より改称。前身の吉備高等学校は、明治40年4月に農業技術者を養成するため、地元三村（藤並、田殿、御霊）組合立吉備実業学校として設立され、昭和23年4月に学制改革により吉備高等学校として改組する。また、同年10月に八幡分校（現：清水分校）を設置した。現在の生徒数は本校277名、清水分校7名。

■参考：「ウッズサイエンス」とは

和歌山県立有田中央高等学校清水分校3年生を対象に2002年度より行っている授業科目で、清水分校の学校設定科目（通年）の一つとして地域の主要な産業である林業や、身近な環境である森林について学習することを目的としている。年間を通して10数回の座学・実技を行い、測量や立木の伐採などに使用する機械器具の使用方法や基礎知識について学習し、現場での活用に取り組んでいる。

【授業風景】



■参考：有田川林業活性化協議会とは

清水森林組合、竹上木材株式会社、(株)清建設 清水木材加工所、マルカ林業株式会社、金屋町森林組合、有田川町から構成され、京都大学フィールド科学教育研究センター和歌山研究林がオブザーバーとして参画。

<この件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

和歌山県有田川町林務課林務班（担当：上田、関下）

☎ 0737 - 52 - 2111（内線 82-251）、0737 - 22 - 4525（直通）

※締結式後、写真の提供も可能です。